

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

私が社会福祉士となるまで

OB MESSAGE

通信教育部社会福祉学科卒業生 佐藤 侑加

地域教育が福祉への入口

私は、東北福祉大学通信教育部へ編入する以前に通っていた大学では、社会学（地域教育）を専攻していました。そのきっかけとなったのは、恩師である担当教授から「スクールソーシャルワーク」という活動を紹介されたためでした。

私は、家族の介護や重い疾患の看病などで足元のおぼつかない状態で幼い頃を過ごし、自身も思春期に不登校を経験しました。しかし、その際に受けた社会的な支援の内容は、カウンセリングなど、自身の内面の問題に目を向けることを促すようなものばかりでした。

私自身はもともと社交的な性格でしたし、勉強にもモチベーションはありましたから、支援を受け、それに感謝しながらも、幼心に「本当にこれでいいのか？」という思いが拭えないまま高校・大学へ進学しました。

そんな言いようのない思いを抱いていたときに出会ったのが「スクールソーシャルワーク」だったのです。私は直感的に、自分が求めていたのはこれだとすぐに確信しました。そして、スクールソーシャルワーカーになるには社会福祉士もしくは精神保健福祉士の資格が必須に等しいということを知りました。当時私が通っていた大学では社会福祉士の養成課程はありませんでしたから、東北福祉大学通信教育部への編入はこの時点で心に決めていたと言っても過言ではありません。

福祉現場での挫折

以前の大学を卒業した私は、社会福祉主事の資格を活かしてとりあえず現場を経験し、東北福祉大学通信教育部編入学への資金を貯めることを目標に働いていました。しかし現場は厳しく、楽しいこともたくさんありましたが、様々な要因が重なり半年ほどで現場を去りました。想像以上に専門的知識が求められることを目の当たりにし、自分がいかに勉強不足だったかを思い知らされたのです。

編入学してからは、自身のペースで勉強ができるように、ある程度勤務体制の調整がきくアルバイトをしながら勉強に取り組みました。

レポート学習の難しさ

以前の大学で4年間、レポートや論文もたくさん書いてきたとはいえ、初めてだらけの通信教育部での学習は、システムを把握するところから苦労するなど、思うように学習を進めることができませんでした。

なんとしても2年で卒業したいと考えていた私には、期限までに提出しなければならないレポートが膨大にあったため、通信教育部の実習系の職員さんには何度も相談に乗っていただき、時には叱咤激励していただきながら、どうかこうにか提出を進めてきました。

スクーリングでのたくさんの出会い

レポートで苦しんだ私ですが、人と会うことや話を聴くことが好きなので、スクーリングにはできるだけ多く通い、同じ志を持つ仲間と繋がりをつくることができました。それは非常に貴重な経験で、今でも交流が続いている方もいらっしゃいます。現場を経験された先生たちの熱のこもった

お話を聴けたこと、それを仲間と共有できたことは何物にも代え難い、一生の宝物です。

また、国家試験対策に特化したスクーリングも多く開催されていたので、それにも極力参加するようにしていました。何しろ、社会福祉士はジェネラリストを目指すものと言われていいますので、国家試験の範囲も非常に多岐にわたっています。幅広く勉強することはもちろん基本であり大切なことなのですが、ある程度重要な部分を見極め、焦点を絞り、要領よく学習を進めることも、合格のためには欠かせないことです。そのために、先生方の講義は国試対策に非常に参考になりました。国試対策講義は、在学生の皆様にもぜひ受講していただきたいです。

福祉への先入観を180°変えることができた実習体験 —————

私が実習先に選んだのは、地元の社会福祉協議会でした。その理由は、ジェネラリストを目指すソーシャルワーカーとして、最も幅広く福祉の事業を実施していて、それを実践を伴って学ぶことができるのは社会福祉協議会だと考えたからです。

結果から言うと、この選択は大正解でした。一度福祉現場で挫折を経験していたため、どうしても業務の大変さばかりが頭に浮かんでしまう私でしたが、お世話になった社協ではチームワークで地域の皆様の幸せな生活を支えていくことを学ばせていただきました。制度ありきで職務に従事していた前職と比べると、新しい社会資源を創出していくような側面も大きく、福祉のクリエイティビティな一面を知ることでもできました。福祉って楽しいことだ、チームワークで仕事をしていくことはやりがいのあることだ、と気づかされた実りある実習でした。

受験勉強の大詰め

私は実習時期が4年次の9月いっぱいと言われ、遅めの時期だったため、国試の本格的な対策に取り掛かるのは遅かったと思います。そのため、一から全部、用語や制度を覚えてはきりがないので、とにかく過去問を繰り返し聞いて傾向を掴むことに集中しました。その中で制度や法、疾患等についての知識を得て、改正された制度や法がないか、その都度チェックしました。11月頃に模試も受験しましたが、結果はあまり思わしくなく、5割程度の点数だったと思います。しかし、参考書の模擬問題や模試の問題は、過去問の本試験問題とは本質的に異なるもののように私には感じられましたので、模試の結果は参考までに捉えて、前向きに勉強に取り組みました。移動時間を利用し、携帯電話の国家試験対策アプリなどでひたすら問題を解くことも行っていました。

試験に合格して

決して褒められた点数ではありませんでしたが、国家試験に合格し、私は晴れて社会福祉士になることができました。大学のレポートや科目修了試験も最後の方まで残っていたため、正直な気持ちを申し上げると、まず大学を卒業ができるかどうか冷や冷やしていました。しかし、今思えばそれが国試に関してもかえって良い方向に働いたのだと思います。なぜなら、東北福祉大学通信教育部での全ての勉強が国試に繋がっていたからです。

よく、大学のレポート学習と国試対策の勉強は全く別物だとおっしゃる方がいらっしゃいますが、私個人としてはそうは考えておりません。レポートもスクーリングも実習も、能動的に学ぶことで必ず国試に役立ってくると私は体感しました。全ては自分の学ぶ姿勢次第で変わってくるので

す。

私は今現在、社会福祉士の資格を生かした職務に就いていますが、自身の今後の生活について考えるところがあり、今後も福祉一本で働いていくかどうかは分かりません。私は導入部分で申し上げたように、福祉を「目的」として社会福祉士を目指したのではなく、社会貢献および自己実現の「手段」として福祉職となることを選んだ側面が大きいです。

しかし、今後も自分も大きな指針や目標は揺らがせることなく、東北福祉大学通信教育部での学びを活かして、また様々な経験を経ながら人間として成長し、社会貢献できるソーシャルワーカーになっていきたいと考えています。

在学生の皆様も、大学での限られた学びの時間を大切に、現場へと活かして行ってほしいと心より願っております。

ここまで読んでいただき、ありがとうございました。微力ではありますが、国試に留まらず、今後皆様が、実り多き学びを得られますようエールをお送りしたいと思います。